

各部会の令和 5 年度後期活動報告について

令和 6 年 3 月 1 5 日

令和5年度「地域生活支援拠点等検討部会」後期活動報告について

1 開催日時

第24回地域生活支援拠点等検討部会 令和5年6月23日（金）

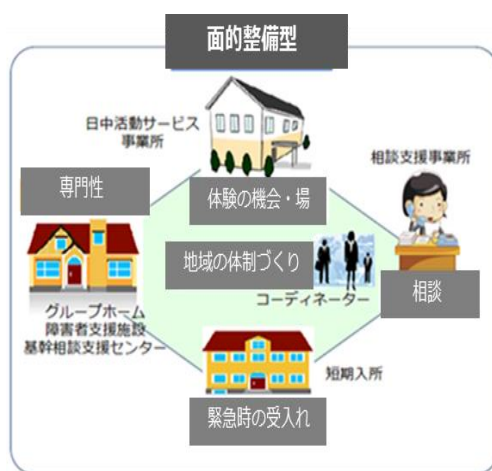
第25回地域生活支援拠点等検討部会 令和5年9月29日（金）

第26回地域生活支援拠点等検討部会 令和6年3月 1日（金）

2 検討事項

障害者の高齢化、重度化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能を整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制として地域生活支援拠点等（以下「拠点」という。）を令和2年度末までに面的整備を行い、令和3年度から運用を開始しました。

今年度の当部会は引き続き、拠点機能の充実にに向けた検討を進めました。



3 部会員

団体等名	氏名
医療法人 成精会	垣田 泰宏（部会長）
社会福祉法人 観寿々会	橋口 磨理子
刈谷市障害者支援センター	相澤 道子
西三河南部西地域アドバイザー	大南 友幸
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	間瀬 菜穂子
刈谷市社会福祉協議会	梅本 秀之
社会福祉法人 ひかりの家	武田 智枝
株式会社 悠	外山 浩章
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	藤井 孝
刈谷手をつなぐ育成会	池田 富
刈谷地域精神障害者家族会	長谷川 宏

4 検討経過

今年度は、昨年度に実施した運営評価において、評価が低かった「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」機能を中心に検討しました。第26回部会では、体験の機会・場の機能として、グループホーム体験利用の体験後の振り返り及び一人暮らし体験利用の制度についての検討、専門的人材の確保・養成の機能として、人材の「確保」に向けた取り組みについての意見交換を行いました。

回数	開催日	内容
第26回部会	3月1日	<ul style="list-style-type: none">・コーディネーターからの報告・グループホーム体験利用状況及び効果検証について・一人暮らし体験利用制度について・人材確保施策について・運営評価及び次年度の取り組みについて

5 検討結果

(1) 事前登録の現状と見通し

事前登録の窓口となる各相談支援事業所と連携し、事前登録が必要と思われる対象者について勧奨の依頼をしました。令和6年2月末時点で事前登録は1件です。引き続き、随時の相談、勧奨等を行います。

(2) 拠点機能の充実について

検討・整備を進めている内容の進捗状況は、ア～ウのとおりです。

ア グループホームの体験利用について

体験利用者の実績について情報共有するとともに体験利用後の振り返り手法について検討しました。引き続き利用者への周知を図るとともに体験利用後のモニタリングなどによる課題の抽出を行い、体験方法やプログラムの改善、地域移行への取組等を検討します。

イ 一人暮らし体験利用の整備について

当事者団体及び相談支援事業所へのアンケート調査を行い、一人暮らし体験のニーズや課題等の意見を集約しました。引き続き、体験プログラムを含めた一人暮らしの「体験の場」の整備に向けて検討します。

ウ 専門的人材の確保・養成について

専門的人材の「確保」について検討しました。従事者の就労に関する実態把握のためのアンケート調査を行いました。引き続き、各部会員が属する法人の人材確保策について情報共有を図るとともに効果的な人材確保策について検討します。

6 運営評価

評価方法

- ・地域生活支援拠点として整備を進める居住支援のための5つの機能ごとに「実績」及び「取組状況」を記載した評価シートを作成。
- ・評価シートに基づき、地域生活支援拠点等検討部会の部会員11名が、それぞれの機能ごとに「課題・意見」を記載し、0から5の（6段階）評価を行う。
 - 0：できていない
 - 1：ほとんどできていないが、仕組みができつつある
 - 2：一部はできているが、まだまだ十分でない
 - 3：大分できているが、十分ではない部分がある
 - 4：ほとんどできているが、改善すべき部分がある
 - 5：できている

令和5年1月1日から令和5年12月31日までの地域生活支援拠点等事業の取組についての運営評価は別添のとおりです。また、項目ごとの評価（平均値）は下記のとおりです。

項目	①相談	②緊急時の受入れ・対応	③体験の機会・場	④専門的人材の確保・養成	⑤地域の体制づくり
評価 (平均値)	3.3	3.0	2.9	2.6	3.5
参考 (前回評価)	2.9	2.6	2.0	1.4	3.0

7 今後の検討事項

令和5年度に引き続き、評価が低かった「体験の機会・場」として、一人暮らし体験の場の整備、「専門的人材の確保・養成」機能として、人材確保策を中心に検討します。また、「相談」及び「緊急時の受入れ・対応」等のその他の機能についても引き続き進捗管理を行うとともに、機能充実に向け検討を行います。

参考

地域生活支援拠点等で整備する5つの柱（機能）について

機能	内容
①相談	基幹相談支援センター、委託相談支援事業、特定相談支援事業とともに地域定着支援を活用してコーディネーターを配置し、緊急時の支援が見込めない世帯を事前に把握・登録した上で、常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等に必要なサービスのコーディネートや相談その他必要な支援を行う機能
②緊急時の受入れ・対応	短期入所を活用した常時の緊急受入体制等を確保した上で、介護者の急病や障害者の状態変化等の緊急時の受け入れや医療機関への連絡等の必要な対応を行う機能
③体験の機会・場	地域移行支援や親元からの自立等に当たって、共同生活援助等の障害福祉サービスの利用や一人暮らしの体験の機会・場を提供する機能
④専門的人材の確保・養成	医療的ケアが必要な者や行動障害を有する者、高齢化に伴い重度化した障害者に対して、専門的な対応を行うことができる体制の確保や、専門的な対応ができる人材の養成を行う機能
⑤地域の体制づくり	基幹相談支援センター、委託相談支援事業、特定相談支援、一般相談支援等を活用して コーディネーターを配置し、地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制の確保や、地域の社会資源の連携体制の構築等を行う機能

評価のまとめ

別添

(地域生活支援拠点等運営評価)

項目 1 相談に対する評価

評価(平均値)	課題・意見
3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、登録者数を増やし実績を積み上げていく必要がある。 ・登録者数は増えていないが。一方で各相談支援事業所が緊急時の対応について検討し、拠点登録前の段階での緊急時対応について検証、検討ができていようになってきていることは評価できる。 ・事前登録のガイドラインの見直しについて検討しても良い。 ・既存の支援体制を引き続き利用したり、新規サービスを利用することで緊急時の対応が可能となっているケースが多いのではないか。 ・ほぼ、去年と内容が変わっていないように思います。そもそも、実績というのは、実際に登録者がいて評価するものであって、例えば、1-⑥は「合意している」となっているが、取り組み状況のところは、説明するように依頼している＝合意しているは違うと思います。実際は、仕組みはできてるけど実績はないのではないのでしょうか？去年も、このようになっていたので、仕組みができてたらできているってことになるのでしょうか？ ・まだ数件にとどまっているため、情報と実績に乏しい。今後の登録数や情報開示が少ないので、今後安心して相談できる体制作りや啓発活動が必要かもしれません。 ・相談できるための体制は、ほぼできていると思います。今後は、なぜ事例(実績)が増えないのかを明らかにして対応されることを望みます。 ・登録者がなく、全体の評価ができない。 ・だいたいできていますが、もっと広報等で広めていった方がいいと思います。 ・民生児童委員としては対象者の把握が難しいと思われます。但し、市役所に実状を確認しながら相談していくことになると考えられます。 ・書面上での仕組みとしては、できているが、実績がないため、書面通りに実施できるのか、わからないため、まだまだ十分でないと思われる。 ・地域生活支援拠点の整備にむけて検討を重ねた項目が多いので、今後も引き続きの実施の方向でよい。実績がないために評価できない項目があった。

項目2 緊急時の受け入れ・対応に対する評価

評価(平均値)	課題・意見
3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・実績がないため必要に応じ定義、手順の検証し、実績を積み上げていく必要がある。 ・緊急時に各障害の方の受け入れ先が決まっている状況ではないため、引き続き検討が必要である。 ・重症心身障害、強度行動障害、精神障害のある人については、受け入れ及び対応について様々な要因により障害種別で差がある。 ・居宅介護や訪問介護、訪問看護などによる、自宅での生活継続に向けた緊急時対応の体制整備も必要となる。 ・ほぼ、去年と内容が変わっていないと思います。まずは、登録者を増やしたほうが良いと思います。刈谷市民の中に該当者がいないわけではないかと思えます。 ・こちらも同様に、利用者の登録数や実績に乏しいため、利用につながった時に課題が見えてくる。現状では、潤沢に受け入れ施設がある訳ではないので、今後の安定した供給ができると安心。 ・身体障害者の実情を分かっている事業所が依然として受け入れていない。全体としては、受け入れ体制はできているが、身体障害者の受け入れ体制を早急に確保してほしい。 ・取組運用で「実績なし」PDCAが廻らないため前ページにある掘り起こしが必要です。 ・実際の事案がでてこない問題点は出てこないと思うので実績をつむむかかないと思います。 ・体制は出来ていると思われませんが、実際に受け入れを行うこととなると、まだ十分配慮されているとは思われないと感じています。 ・仕組みとしては、できつつあるが、実績のない状態のため、きちんと対応できるのか不明である。短期入所のみでは、緊急時対応ができるものではないため、ヘルパー等の確保について検討していく必要があり、障害のある方によっては、医療との連携手段も今後は考えていく必要があるため、まだまだ不十分とした。 ・地域生活支援拠点の整備にむけて検討を重ねた項目が多いので、今後も引き続きの実施の方向でよい。実績がないために評価できない項目があった。

項目3 体験の機会・場に対する評価	
評価(平均値)	課題・意見
2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム体験利用人数、日数が増えてきたのはとても良い。一人暮らしが体験できる場及び体験利用の検討、体制や環境整備が引き続きの課題である。 ・グループホーム体験利用について、周知のための広報活動が必要と思われる。 ・4-④の項目の取り組み状況について、より具体的な例や実数の記載をしてほしい。 ・一人暮らしでの生活体験ができる場の確保については、今後の体制整備に期待したい。 ・課題は、体験の場が増えるようになること ・体験の場や緊急時の受け入れに、市内では重度の利用者様への対応が難しい。少しずつでも環境整備ができれば良いと思います。 ・障害の特性に応じたいてないな体制づくりが大変難しいことは十分に理解できます。少しずつ、体験の場やプログラムが充実していくことをお願いします。 ・体験の機会の利用有の評価がないため、全体の評価ができない。 ・一人暮らしは、GHは集団生活のため、集団生活になじめない人のため、アパート等の生活も早期に確保いただきたい。 ・グループホームの体験は引き続き希望者が安心して体験できるようにして欲しいです。 ・一人暮らしの体験は、今後検討していただきたいと思います。 ・体験については知らない、不安に思う対象者がいるのではないとも考えられます。 ・グループホームでの体験利用についての整備ができてきているが、一人暮らしに対してのプログラムはできていない。今後は、入所施設からの体験利用を検討していくことが必要であり、グループホームから一人暮らしへの体験プログラムを検討していく必要があるため、十分でないとして評価する。 ・体験の機会・場について、整備・実施上の検討が十分なされていないので、今後の課題として評価した。障害種別・程度の重さに関係なく親亡き後を見据えた自立生活の体験として整備することが望まれる。
項目4 専門的人材の確保・養成に対する評価	
評価(平均値)	課題・意見
2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな部会を立ち上げ研修を実施できたことは評価できる。専門的人材の確保に関する体制整備が引き続きの課題である。 ・今年度新たに福祉人財部会が立ち上がり、継続的な人材確保や、雇用が継続できるような研修制度の取り組み、また人材確保のための方策や体制が整うよう検討していくことが課題である。 ・研修の実施については参加希望者が少ないため、改めて日時や内容、開催場所についてニーズの見直しなどを考える必要がある。 ・2-③特別支援学校の教員が3号研修を行っていることで、人材育成ができていとなるのでしょうか？もし、特別支援学校で3号研修ができるのなら、施設職員にも研修を行ってほしいです。実績ありってことは、刈谷市の取り組みと捉えて、施設職員にも受講させてください。 ・人員の確保や専門性の体制作りは、大きな課題である。各法人単位では限界があるので市全体で捉えていきたい。 ・人材雇用、育成は今後の刈谷市地域において課題であると感じる。福祉事業においては人材はもっとも必要です。 ・人材雇用、育成が進まないと将来的に先細りになるので、危機感はある。 ・障害者すべてに寄り添った適切な介助者になるために、さらに研修を深める取り組みを継続してください。 ・目標とする人材の達成度評価ができると良いと思います。 ・研修の体制は整えていると思いますが、現場の人材は不足しているので、働く側の意見等も取り入れ、人材養成・育成に力を入れ、人材確保に努めていただきたいと思います。 ・民生児童委員においては高齢者福祉に目が行きがちですが、障害者福祉については実状を知ることや障害者福祉の研修等の必要性を思います。 ・研修のみではなく、行動障害や重症心身障害のある方のコーディネートできる人材をつくっていくことが必要。各事業所に任せきりになるのではなく、横のつながりを作りながら、職員の方がバーンアウトしない取組も検討していく必要がある。 ・福祉人財研修部会を軸に、福祉人材の専門性や資質の向上を図ることが期待される。まだ、実績が乏しいので今後は期待する評価とした。

項目5 地域の体制づくりに対する評価

評価(平均値)	課題・意見
3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・交流、協議の場から新たな取組が実現すると良い。 ・各サービス事業所も増えていく中で、現在行っている各部会や連絡会を継続し、より活発な議論が行われ、地域の体制作りがより具体的にみえる形になっていくことが望ましい。 ・1-②のコーディネーターとは？ ・自立支援協議会では、現状についての報告及び共有の場に留まっているため、必要に応じて制度の狭間となっている福祉ニーズ・生活課題や困難事例についての検証と検討も考えていきたい。 ・設置、協議こそしておりますが、具体的な案や改善は感じられないので、少しずつ進歩できたら良いと思います。 ・地域生活支援拠点事業の課題や問題点を今後も明らかにして、改善する取り組みをお願いします。 ・全体の調整役としてコーディネータは重要と思いますので、配置の早期実施を願います。 ・これからも関係者間のつながりを体制にして連携をとっていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。 ・概ね良いとおもわれますが、地域とかかわりの深い民生児童委員としては、まだまだ知らない事ばかりで障害者福祉に特化した研修が必要と考えてます。 ・不足するサービスの確保については、協議する場所はあるが、実際に確保できる場所ではない。日中支援型GHでの評価についても、基準を協議会等で検討していく必要があると思います。 ・基幹相談を中心として、かなり充実した運用がなされている。一方、刈谷の福祉全体の方向性としての理念や目標や課題の共有を自立支援協議会がリードできるとよい。

令和5年度「就労支援部会」後期活動報告について

1 開催日時

第44回就労支援部会	令和5年 6月13日 (火)
第45回就労支援部会	令和5年10月 3日 (火)
企業向け雇用セミナー	令和6年 1月22日 (月)
第46回就労支援部会	令和6年 1月30日 (火)

2 部会員

団体等名	氏名
認定特定非営利活動法人 パンドラの会	坂口 伊久磨 (部会長)
特定非営利活動法人 くるくる	手嶋 雅美
パッソ刈谷校	大城 盛一郎
LITALICO ワークス刈谷	竹内 勇太
刈谷市障害者支援センター	梶 佳稔
西三河南部西障害者就業・生活支援センター	川村 顕治
刈谷商工会議所	岡田 行永
刈谷公共職業安定所	志水 みゆき
愛知県立安城特別支援学校	加藤 昌子
刈谷市立刈谷特別支援学校	佐伯 忍
商工業振興課	北洞 貴康

3 報告事項

(1) 第45回就労支援部会 (令和5年10月3日開催)

ア 雇用セミナーについて

令和5年8月、9月に実施したワーキンググループの内容等について部会員に報告し、情報共有を行いました。

イ 課題解決に向けた取り組みについて

課題1 ひきこもりを含む若者の就労支援について

NPO法人ぷらっとほーむ木下氏により以下の内容の講演をしていただきました。

<主な内容>

- ・刈谷市子ども若者総合相談窓口としての取り組み内容や相談実績について
- ・就労に向けての取り組みについて

課題2 学校卒業後の就労定着支援について

<主な意見>

- ・卒業後3年間は学校がフォローアップしているが、企業との間への支援は専門外である。
- ・障害者就業・生活支援センターへ登録をしても、本人と新たに関係性を築くことが困難である。
- ・特別支援学校卒業後の人を対象に就労移行支援を試行的に利用することはできないか。

課題3 就労継続支援A型・B型からの一般就労促進について

<主な意見>

- ・令和5年10月から最低賃金上がるため、各就労継続支援A型事業所は利用者への賃金の支払いに関して苦慮している。
- ・ハローワークにも利用者から最低賃金上がることに関する相談が増えている。

(2) 企業向け障害者雇用セミナー（令和6年1月22日開催）

ア 開催場所・開催方法

産業振興センター 604会議室

会場参加

イ プログラム

①障害者雇用のサポートについて

「企業向けチーム支援について」

講師：ハローワーク刈谷 内藤孝義 氏

「障害者就業・生活支援センターとは」

講師：障害者就業・生活支援センター 川村顕治 氏

「就労移行支援と就労定着支援」

講師：パソ刈谷校 大城盛一郎 氏

②障害者雇用を行った企業の事例紹介

発表者：小林クリエイト株式会社 瀬古美華子 氏と従事者の方

株式会社アドヴィックス 五味智子 氏と従事者の方

③グループトーク

ウ 参加者数

19団体 23名

<参考>過去に開催した雇用セミナーの参加者数

令和4年度：15団体、18名

令和3年度：28団体、50名

令和2年度：中止

<参加者の主な意見>

- ・支援機関が多くあることを理解できた。
- ・支援サポートが充実していることを知ることができた。
- ・社内での取り組みや好事例を聞いて参考になった。
- ・当事者からの説明もあり、障害のある方の気持ちを理解しなければならないと再認識できた。
- ・他社の意見や状況が聞いて参考になった。

(3) 第46回就労支援部会（令和6年1月30日開催）

ア 雇用セミナーについて

1月22日に開催した雇用セミナーについて、振り返り及び来年度の開催について検討しました。

①振り返り

- ・事例紹介が一方的に情報を伝えるのではなく、双方向で話を進める形だったため、聞きやすかった。
- ・グループトークのファシリテーターとして就労移行支援事業所が入り、直接企業とやりとりできたのが良かった。
- ・企業同士が障害者雇用について意見交換し、企業の繋がりができたことが良かった。

②来年度の開催について

- ・企業同士や支援機関と繋がることのできるようなセミナーにしていくために内容等について検討を行う。

イ 就労支援に関する課題解決に向けた取組みについて

課題1 ひきこもりを含む若者の就労支援について

<主な意見>

- ・学生時代から関わっていくとよい。
- ・本人が安心できる場所がまず必要である。子ども部門とも問題を共有していく必要があるのではないか。

課題2 学校卒業後の就労定着支援について

<主な意見>

- ・令和7年10月から施行される就労選択支援によって、在学中から障害福祉サービス事業所と関係性を築ききっかけになるのではないか。

課題3 就労継続支援A型・B型からの一般就労促進について

令和5年12月に実施した就労支援連絡会でハローワーク刈谷の志水氏より講演いただきました。

<主な意見>

- ・講演の中で、就労継続支援事業所でもハローワークを活用できると知ることができてよかった。
- ・就労継続支援B型は居場所代わりになっている部分もあるため、一般就労へはなかなか結びつかない。

4 今後の取組み及び検討事項等

これまでの部会で抽出された3つの課題解決にむけて、プロジェクトチーム等で検討を重ね、さらなる取組みについて検討を行います。

また、セミナーについては、今年度のセミナー参加者から寄せられたアンケートの回答結果を分析し、より一般就労の促進につながる内容や開催方法等について検討を行います。

令和5年度「相談支援部会」後期活動報告について

1 開催日時

第64回相談支援部会	令和5年	5月18日	(木)
第65回相談支援部会	令和5年	9月14日	(木)
第66回相談支援部会	令和5年	12月21日	(木)
第67回相談支援部会	令和6年	3月4日	(月)

2 部会員

団体等名	氏名
刈谷市障害者支援センター	伊澤紀明(部会長)
社会福祉法人 ひかりの家	山田哲哉
社会福祉法人 観寿々会	酒井克朗
刈谷市社会福祉協議会	日沖靖子
株式会社 悠	外山浩章
株式会社 エイト	河野尚子
西三河南部西地域アドバイザー	大南友幸

3 報告事項

(1) 相談支援部会における検討内容等

ア 相談支援部会に関連する各連絡会報告

各連絡会の活動報告を行い、そこで話し合われた困難事例や地域課題、その解決策等について共有をしました。

相談支援連絡会では、事例検討から各事業所の課題とその解決策を考え、地域課題の整理を行いました。地域包括交流会では障害福祉サービスと介護保険サービスの移行及び併給の関係について話し合い、利用者と支援者が困惑しない運用を実現できるよう検討を行いました。地域生活支援連絡会では、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題の洗い出しを行うとともに、次年度以降に取り組む内容について検討を行いました。

居宅事業所連絡会及び通所事業所連絡会では、事業所間の交流を図るとともに、各事業所の困難事例を共有することで、地域での連携強化に取り組みました。

イ 相談支援体制の充実に向けた取組について

刈谷市の相談支援体制を充実させるための取組を検討するなかで、近隣の状況や実績を取り入れるため、安城市の相談支援事業所の支援員を講師として招き、講義をしていただきました。安城市では、複数の小規模な事業所間で協定を結び一体的な運営をすることで、機能強化型の高い報酬単価で算定できる体制を整えている事業所があり、こうした運用の実態を理解することができました。

ウ 合同連絡会について

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の概要について、厚生労働省の通知内容の読み合わせを行い、特定の事業所の改定に向けた取組を紹介する予定（3月14日）です。相談支援部会では、訪問系及び通所系事業所との関連もあり、理解しておくべき改定内容が多々あるため、対応に漏れないよう話し合いを行う予定です。

4 総括及び検討課題

以前より相談支援体制の充実が課題として挙がっており、多くある地域課題のなかでも、特に優先して解決すべき課題となっています。相談支援連絡会において、他市の相談支援専門員に講義をしていただいたことで、体制の整備に課題を抱えていることが本市だけではないことを再確認するとともに、部会として取り組める課題解決策の知見を広げることができました。また、来年度は障害福祉サービス等報酬改定があるため、報酬面での改正も踏まえ、相談支援の質の向上や提供体制の整備に取り組むことについて、引き続き部会で検討を重ねていきます。

令和5年度「子ども部会」後期活動報告について

1 開催日時

第24回子ども部会 令和5年 7月11日（火）

第25回子ども部会 令和5年11月14日（火）

第26回子ども部会 令和6年 2月 6日（火）

2 部会員

団体等名	氏名
子育て支援課	角 岡 篤 樹（部会長）
社会福祉法人 ひかりの家	大 南 友 幸
医療法人 成精会	佐々木 広 香
刈谷特別支援学校PTA	小 林 歩 美
安城特別支援学校地区別懇談会 刈谷交流会	鈴 木 美恵子
らっこちゃん親の会	宮 田 志保子
刈谷児童相談センター	鈴 木 雄 二
刈谷市立刈谷特別支援学校	岩 本 詩 野
愛知県立安城特別支援学校	加 藤 昌 子
学校教育課	清 水 都世子
刈谷市社会福祉協議会	三 浦 敏 美

3 報告事項

(1) 第25回子ども部会（令和5年11月14日開催）

ア 子育て支援セミナーの開催について

ワーキンググループにて決定した内容の確認と子育て支援セミナー当日の役割分担についての検討を行いました。

イ 所属機関の事業内容及び抱える課題についての検討

第24回子ども部会において、刈谷市立刈谷特別支援学校、らっこちゃん親の会の2機関より提示された課題について以下のように検討しました。

①刈谷市立刈谷特別支援学校

重度身体障害児の特別支援学校卒業後の進路として多くの割合を占める生活介護の事業所が少なく、受入先がないことが課題である。

⇒実際は空きのある事業所はあるが、空いている事業所に上手くつなげていないことが原因と考えられるため、相談事業所を活用して、適切につなげて

いくことが必要である。

②らっこちゃん親の会

学校や教員によって、特別な支援が必要な子どもの対応が異なることがあり、不平等を訴える保護者が多くいる。通常の対応を案内するのではなく、最初から特別な対応を当たり前のように案内する人がいることで、トラブルが増え、保護者、支援者が疲弊してしまっているケースが増えていることが課題である。

⇒学校と福祉事業所で対象児に対する目標や課題を共有し合える場を作り、対象児の生活の場が偏らないように調整していくことが大切である。

(2) 子育て支援セミナー（令和6年1月25日開催）

ア セミナー内容

【開催日時】令和6年1月25日（木）午前10時～正午

【会場】刈谷市社会教育センター401研修室

【講師】神谷 建喜 氏

【内容】講演（60分）※質疑応答含む

「子どもの教育（保育）に対する保護者の積極的な関わりについて」

⇒乳幼児から大学生までのそれぞれの段階で、進級・進学・就職や学校への行き渋りのこと等、子どもたちや保護者への支援をしてきた経験を基にした内容。

○交流タイム（30分）

7グループに分かれ（1グループ7人程度）、それぞれのグループに1名ファシリテーターを置き、自己紹介、講演の感想をグループ内で話し合い。

イ 参加者数

①申込数 53名

（セミナーを知ったツール）

チラシ：30名 市民だより：11名 あいかり：5名

LINE：2名 その他：5名（放デイや療育からの情報）

②申込方法

電子フォーム：34名 電話：8名 FAX：6名 申込用紙：5名

③来場者数：62名

（内訳）

一般市民：38名 支援機関：8名 スタッフ：16名

※託児利用数13名

ウ アンケート結果

回収：43枚（うち交流タイム参加：36枚）

【講演について】

内容の理解度	平均 5.4	理解できた	←—————→					理解できなかった	回答なし
		6	5	4	3	2	1		
		22	17	4	0	0	0	0	
講演の時間	平均 3.6	長い	←—————→					短い	回答なし
		6	5	4	3	2	1		
		2	8	14	13	3	3	0	
日常の子育てや生活に役立ちそうか	平均 5.4	役立つ	←—————→					役立たない	回答なし
		6	5	4	3	2	1		
		24	12	4	2	0	0	1	

【交流タイムについて】

交流の時間	平均 3.0	長い	←—————→					短い	回答なし
		6	5	4	3	2	1		
		0	5	7	9	12	3	7	
日常の子育てや生活に役立ちそうか	平均 5.5	役立つ	←—————→					役立たない	回答なし
		6	5	4	3	2	1		
		23	8	4	1	0	0	7	

【来年度以降のセミナーに対する希望】

- ・グリーゾーンの子どもの親に対しての支援について
- ・低年齢の子どもに対する関わり方について
- ・発達障害について、他者の意見が聞ける場の提供について
- ・教育と福祉との連携に関することについて
- ・ライフステージごとの問題点、卒業後の支援について
- ・夫婦関係、祖父母関係が子どもに及ぼす影響について
- ・食育・遊び、外国語教育、ギフテッドについて

(3) 第26回子ども部会（令和6年2月6日開催）

ア 子育て支援セミナー振り返りについて

参加者からのアンケート結果に基づいて、当日の所感や反省点を確認し、来年度のセミナー開催について検討を行いました。

その結果、参加者のセミナーにおける内容の理解度が高く、子育てについて勉強したいという保護者のニーズもあることから、来年度以降も引き続き、セミナー開催を目指していくこととなりました。一方で、講演や交流タイムの時間が短いという声もあることから、タイムスケジュールについては検討の必要があると考えます。

イ 次年度の子育て支援セミナーのテーマについて

次年度の子育て支援セミナーのテーマ候補として、グレーゾーンの子どもの社会性・協調性・集団力について、障害児を持つ親の子離れについて、親が子どもに及ぼす影響について、ギフテッドについてなどが挙げられました。

ウ 医療的ケア児の支援体制の整備について

令和5年5月に行った刈谷市内在住の医療的ケア児全数把握調査の結果を基に、医療的ケア児とその家族の生活の実態を把握するためのアンケート調査を令和6年2月より福祉総務課が主体で実施しています。医療的ケア児とその家族の実態を把握することによって現状の課題を洗い出し、今後の医療的ケア児支援の充実を図ることを目的としています。

4 総括及び検討事項

子育て支援セミナーについては、セミナーを開催し、講演、交流タイム共に参加者の満足度は高いものとなりました。実際に障害児支援に携わってきた方、福祉機関、教育機関及び実際に子どもを育ててきた先輩保護者と交流できる機会は、参加者が今後の子育てをする上で効果的であることが分かりました。来年度については、今年度のアンケート結果等を踏まえ、より保護者のニーズに合ったセミナーとなるよう部会で検討をします。

また、各機関の連携について、各機関の課題や強みについて情報共有をし、さらなる連携体制を構築するための仕組みを部会で検討します。

令和5年度「福祉人財研修部会」後期活動報告について

1 開催日時

- 第1回福祉人財研修部会 令和5年 6月19日（月）
第2回福祉人財研修部会 令和5年 8月22日（火）
第3回福祉人財研修部会 令和5年12月11日（月）
第4回福祉人財研修部会 令和6年 2月26日（月）

2 検討事項

令和5年度から新たに設置された部会です。市内福祉事業所の人材育成・スキルアップ、障害者理解を図るために必要な研修内容（テーマ）の検討、選定及び実施手法等を構築し、研修を開催しました。

3 部会員

団体等名	氏名
刈谷市社会福祉協議会	中 筋 陽 三（部会長）
社会福祉法人 観寿々会	橋 口 磨理子
社会福祉法人 ひかりの家	土 井 康 臣
刈谷市障害者支援センター	相 澤 道 子
株式会社 悠	外 村 敦 子
特定非営利活動法人 くるくる	加 藤 正 昭
S&J パンドラ	瀧 川 賢 司
タッチ	河 野 尚 子
放課後等デイサービス北風と太陽刈谷	安 田 有紀美
障がい者グループホームわかばの里	川 端 裕 美

4 検討経過

第3回部会及び第4回部会において、「虐待防止研修」、「令和6年度研修」について研修内容及び実施手法等を検討しました。

5 実施研修

回数	開催日程 場所	内容及び受講者評価	参加人数 (申込人数)
第1回	7月26日(水) 14:00~16:30 刈谷市産業振 興センター	虐待防止研修 1 講師 (社福)ぬくもり福祉会 ぬくもりの 家(安城市) 施設長 ^{いいのやすお} 飯野 恭央氏 2 テーマ 「障害者支援従事者の私たちが意識し ておくべき3つのこと」 3 受講者評価(1~5) 時間 3.9 内容 4.0 有益性 4.1	22事業所 34名 (26事業所 41名)
第2回	9月21日(木) 14:00~16:30 刈谷市産業振 興センター	虐待防止研修 (第1回研修と同内容) 1 受講者評価(1~5) 時間 3.8 内容 4.2 有益性 4.2	28事業所 46名 (35事業所 60名)
第3回	令和6年 2月20日(火) 13:00~17:00 刈谷市産業振 興センター	メンタルヘルス研修 1 講師 (一社)日本経営協会 ^{さばとよしひろ} 鱈戸 善弘氏 2 テーマ 「相互理解で気持ちを楽にしよう」 3 受講者評価(1~5) 時間 4.2 内容 4.7 有益性 4.6	15事業所 17名 (15事業所 17名)

6 総括及び検討課題

刈谷市内における研修機会を提供するため、虐待防止研修をはじめ3回の研修を開催し、延べ65事業所97名の参加がありました。サービス提供への影響を抑え、より多くの参加を図るため、実施時期や実施時間の設定に迷う面がありました。

研修受講者アンケートの結果等を踏まえ、虐待防止研修を継続開催に向け、その内容等を検討するとともに、次年度以降の研修内容の選定及び実施手法、適切な開催時期を検討し研修を実施します。